日蓮大聖人御書全集

じょうみょうししょうにんごへんじ

乘明聖人御返事

こんじゆによ こと

(金珠女の事)

新版
1368

じようみようしようにんごへんじ こんじゆによ こと

乗明聖人御返事（金珠女の事）

けんじ ねん がつ にち さい おおたじようみよう

建治3年（77）4月12日 56歳 大田乗明

そうしゆうかまくら せいふふたゆい こうしゆうみのぶ みね おく つか

相州鎌倉より、青鳧二結、甲州身延の嶺に送り遣わさ

そうら お

れ候い了わんぬ。

むかし こんじゆによ きんせんいちもん もくぞう はく くじゆういちこうこんじき

昔、金珠女は金銭一文を木像の薄となし、九十一劫金色

み おとこ こんし いま かしよう みらい こうみよう

の身となりき。その夫の金師は、今の迦葉、未来の光明

によらい いま じようみようほつしみようにち めみよ どうせん

如来これなり。今、乗明法師妙日ならびに妻女は、銅銭

にせんまい ほけきよう くよう かれ ほとけ きよう きよう

二千枚を法華経に供養す。彼は仏なり、これは経なり。経

し ほとけ でし ねはんぎよう い しよぶつ し

は師なり、仏は弟子なり。涅槃経に云わく「諸仏の師とす

るところは、いわゆる法なり乃至この故に、諸仏は恭敬・
ほう ないし ゆえ しよぶつ くぎよう

くよう

ほけきよう だいしち い

ひとあ

しっぽう

供養す」。法華經の第七に云わく「もしまた人有つて、七宝

さんぜん だいせん せかい み

ほとけ

だいぼさつ

をもつて三千大千世界に満てて、仏および大菩薩・

しゃくしぶつ あらかん くよう

ひと う

くどく

辟支仏・阿羅漢に供養せんも、この人の得るところの功德は、

ほけきよう ないし いちしくげ じゆじ

ふく もつと おお

この法華經の乃至一四句偈を受持する、その福の最も多き

にはしかじ」。

そ おと ほとけ くよう

夫れ、劣る仏を供養するすら、なお九十一劫金色の身と

すぐ きよう くよう

せしゆ いっしやう ぶつ い

なりぬ。勝れたる經を供養する施主、一生に仏位に入ら

しんごん ぜんしゆう ねんぶつ しゃとう ほうぼう くよう

ざらんや。ただし、真言・禪宗・念仏者等の謗法の供養を

じよきよ

たと

しゆら

すうちよう

たいしやく

ききよう

除去す。譬えば、修羅を崇重しながら帝釈を帰敬するが

きようきようきんげん

ごときのみ。恐々謹言。

うづきじゆうににち

卯月十二日

にちれん

日蓮

かおう

花押

じようみようしようにんごへんじ

乗明聖人御返事